



わが社のインターンシップ

山崎 武瑠

1. 出光興産(株)における化学工学会インターンシップ

当社は2015年度に初めて化学工学会インターンシップを受け入れました。実習内容は、化学工学的な実験をおこなって得られた結果を基に機器の設計までおこなうというものです。昨年の対象テーマは「吸着塔の設計」で、限られた期間に実験から設計までの一連の流れを経験できる内容としました。実習生3名に対して、担当者として私と、全体をリードする指導技術者が1名、さらに実験のアシスタントが1名つきました。期間は8月中旬から9月初旬にかけての3週間でした。はじめの2週間は千葉事業所内にある実験設備を使って実験及び解析をおこない、残りの1週間は幕張にある生産技術センターに移って解析結果を用いた設計をおこなっていただきました。また研修の最後には発表会をおこないました。

これらは2015年度のやり方ですので人員や期間はテーマに応じて多少変わるかもしれません。以下に2015年度のスケジュール表を示します。

日付場所	1週目	2週目	3週目
全体	会社紹介 安全教育 導入教育 設備・機器の説明	事業所見学	海浜幕張 WBG
実験	吸着剤 特性評価実験	実験データまとめ	
設計			吸着塔 設計
発表会			資料作成 発表会

以下では2015年度の例を具体的に説明します。

実習生はまず会社紹介、安全教育、実験内容についての導入教育といった形で一通りの説明を受けます。次に実験室に移って実験設備や分析機器、使用器具の説明があります。

その後は実験に入っていきます。はじめは担当者が実験方法を終始指導しますが、徐々に実習生だけで実験、解析をしてもらいます。実験中に顕在化する不具合や細かい疑

問点を追求する中で実験装置や解析方法に工夫を加える必要が出てきますが、これらは実習生自身に考えてもらい、問題解決に向けて自主的に取り組んでももらいます。さらに1日の中のタイムテーブルや仕事の分担の組み立ても、できるだけ実習生の自主性に任せるようにしています。また、実験期間の途中には千葉事業所の見学もおこないました。実際のプラントを間近にしてその規模を実感してもらいます。

2週間かけて実験と解析が終わったら、次は生産技術センター幕張オフィスで設計に移ります。最終的には経済性を含めた評価によって機器の仕様を決定することで、企業の視点といったものに触れていただきます。また、この辺りまで来ると最終発表の準備も並行しておこなうため、1日のスケジュールも必然的にタイトになります。時間に追われながらも成果物を仕上げるというリアルな仕事の様子を実感していただけたと思います。

最後の発表会ではプレゼンテーションと質疑があります。出席するのは担当者、指導技術者、社内関係者です。昨年の発表会では最後に実習生から所感を述べていただきましたが、「大学(研究室)と企業で求められるものの違いを感じることができた」、「化学工学の知識がどのように生かされているのか学ぶことができた」といった言葉を聞くことができました。

2. インターンシップ受け入れ企業としての所感

インターンシップのような就労体験の場は、学生にとって企業への理解を深める大変良いチャンスです。

インターンシップの目的の一つは、大学で学ぶ化学工学が実際の企業活動の中でどのように活用されているか仕事の模擬体験を通して理解いただくことです。また擬似的な業務体験を通じて当社の仕事を肌で感じてもらい、仕事ならではの苦労や達成感といったものも感じてもらうのもインターンシップで得られる成果の一つだと思います。

一方で社内的な視点で見たとき、インターンシップは若手技術者育成の良い機会でもあります。私のような若手技術者はインターンシップのために実験や解析のスキルを前もって身に付ける必要がありますし、実習生の受け入れ期間中に議論する中でも多くを学びます。さらに、こうした設計技術を「教える」ことで、自分自身の理解を深める良い機会にもなりました。実は上記発表会は、社内関係者からは担当である私の成果発表会として見られるというおまけまでついています。

今後も継続してインターンシップ受け入れを募集していく方針です。意欲的な学生の参加をお待ちしております。



Takeru YAMAZAKI
2012年 千葉大学大学院工学研究科修士
現在 出光興産(株)生産技術センター
連絡先: ☎ 261-7134 千葉県千葉市美浜区中瀬2-6-1
E-mail takeru.yamazaki@idemitsu.com